

# 謎とき! 日本一

## 銅器 釣り鐘から両さんまで

大みそかの夜、おごそかに鳴り響く除夜の鐘。列島各地の寺にある釣り鐘の多くが富山県高岡市で造られたことをご存じだろうか。

生産する全国7社の中で最大手の老子製作所も市内にある。全国の寺から年間30〜40口を受注。江戸時代中期からの老舗で、成田山新勝寺や比叡山延暦寺、西本願寺といった有名寺院の釣り鐘をはじめ、広島「平和の鐘」も手がけた。

戦時中の金属供出で各地の釣り鐘が姿を消し、戦後に再設置の動きが広がる。年間約1000口を手がけた時期もあるそうだ。河

### 富山県高岡市



⑤老子製作所の工場内に並ぶ釣り鐘。受注から設置まで1年がかりで職人の粋を込める＝富山県高岡市戸出栄町④「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の主人公・両津勘吉像（中央）＝東京都葛飾区のJR亀有駅前

原公成営業部長(54)は「心地よい低音と『うなり』と呼ぶ余韻がポイント。一つとして同じ響きにはなりません」と話す。

アニメキャラや武将、動物など各地にある銅像の大半も高岡産だ。東京・JR

亀有駅周辺に建つ人気漫画「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の主人公・両津勘吉像などを手がけた竹中銅器の鉢呂克彦営業部長(63)は「どの角度からも生き生きと見えるように、細部の動きや質感に徹底的にこだ

わっています」。

東京都武蔵野市は、アジアン「はな子」の銅像を市民の募金で建てる計画だ。請け負ったナガエの永山泰徳さん(28)は「末永く愛されるはな子像を送り出したい」と意気込む。

「高岡銅器」は美術工芸品の銅器生産額で全国の8割超を占めるとされ、1975年に国の伝統的工芸品の指定を受けた。起源は江戸時代初期の1611年、加賀藩2代藩主の前田利長が高岡城下に7人の鋳物師を呼び寄せて開いた工場だ。

次第に神仏具や花瓶、茶道具などの銅器生産が活発になり、明治期以降は、企画開発や販売を担う問屋の注文に応じて鋳造、研磨、彫金、着色、仕上げなど各

工程を専門業者や職人が請け負う分業化が確立。今も職人技の粋が込められる。

ただ、生活様式の変化で需要は落ち込む。市のアンケートでは、市内の銅器産業の2014年の総売上額は約117億円で、最盛期の90年の約374億円から半分以上に。高齢化と後継者不足による廃業も多い。

約200社が加盟する「伝統工芸高岡銅器振興協同組合」は、職人のもとに若手を派遣してマンツーマンで継承する事業や、映像記録化を市と連携して進める。「400年の伝統を守る。400年の伝統を守りながら、時代のニーズをつかんで挑む銅器の街を次世代につなげたい」と梶原敏治理事長(65)は力を込める。

(本田直人)